

【解答例】

(I)

問1 匈奴の南北分裂を機に、傭兵や労働力として華北に移住する北方諸民族が増え、司馬氏の権力争いである八王の乱で西晋の諸王が五胡の武力を用いたことが、五胡の侵入の活発化を招いた。この混乱を機に西晋より自立した匈奴が強大化し、羯を服属させつつ南下した。匈奴らが永嘉の乱で西晋を滅ぼしたことが契機となり、五胡は華北各地に本格的に移住した。

(153字)

問2 エフタル

問3 高句麗、新羅、百済の三国が争う中、新羅は唐と連合して百済を滅ぼし、百済を支援した日本の援軍も破った。新羅と唐が高句麗も滅ぼすと、唐は都護府において朝鮮半島の支配を企てたが、新羅が唐を排除して半島を統一した。(103字)

問4 ア

(II)

問1 平戸や長崎に寄港したオランダ人が日本人のキリスト教徒と結婚したが、江戸幕府がキリスト教の禁教令を強化した結果、日本人の改宗者や子孫は国外追放となったため、オランダ東インド会社の拠点であるバタヴィアに移住した。(104字)

問2 バタヴィアをアジア貿易の拠点とし、ポルトガルからマラッカを奪ってヨーロッパ向けの香辛料貿易を独占した。アジア各地に建設した商館を拠点に、香辛料のほかインドの綿布や藍を入手し、これらを相互に交換することで利益を得た。また、日中貿易の中継拠点として台湾を確保し、鎖国下の日本との貿易で得た銀を、中国の絹や陶磁器と交換した。(145字)

問3 エ

問4 ウ

(III)

問1 日英通商航海条約を結び、領事裁判権の撤廃や関税自主権の一部回復などを実現した。

問2 イラン立憲革命、青年トルコ革命、ドンズー運動などから1つ

問3 第一次世界大戦で帝政国家が崩壊し、欧州列強が疲弊する中、ソヴィエト＝ロシアはカラハン宣言を発して帝政ロシア時代に獲得した中国権益を放棄し、また、国際政治で台頭したアメリカが訴えた民族自決の原則下で東欧の諸民族が独立を果たした。民族自決はアジアには適用されなかったが、アジア諸地域の民族運動は高揚した。国際連盟の常任理事国となり政治的地位を高めた日本の支援が期待されたが、日本は欧州列強と同じく植民地支配を維持した。(207字)

問4 中ソ友好同盟相互援助条約を結んだ中国は、ソ連の支援のもとで第一次五か年計画を実施した。しかし、フルシチョフがスターリン批判を行い西側との平和共存路線に転じたことに毛沢東は反発し、中国とソ連は対立した。1960年代には両国の対立が公開論争になったほか、ダマンスキー島など中ソ国境で武力衝突が生じた。1970年代も中ソ関係は悪化し続けたが、中国で鄧小平が実権を掌握し、ソ連のゴルバチョフ訪中が実現すると、両国の国交は正常化した。(208字)